

災害から命を守るためにすべきこと

今月9日、非常に強い台風15号が首都圏に猛威を振りました。気象現象は今後さらに激甚化し、いつ、どこで災害が発生してもおかしくありません。

昨年12月、国の中央防災会議において「平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ」がまとめた報告書には、行政主導の避難対策には限界があるとして、「一人ひとりが主体的に行動しなければ命を守ることは難しい」としています。

行政は、よりの確な情報発信などの避難対策の強化に努めますので住民の皆さんは当事者意識を持って避難行動につなげてください。平時から自宅や地域の災害リスクを正しく知り、それに応じた避難行動を家庭や地域で考えておきましょう。



台風15号の影響で倒壊した海の家（9日午後、神奈川県三浦市 写真提供=共同通信社）

地域の水災害リスクの理解を深める ハザードマップをまちなかへ

国土交通省は地域をまるごとハザードマップに見立てた「まるごとまちごとハザードマップ」の取り組みを自治体と連携するなどして進めています。

これは、まちなかの電柱などに浸水深などの情報を標示し、周辺の浸水深や浸水範囲を事前知っておくことで、水災害時の的確な避難行動につなげるものです。住民の皆さんも避難経路の確認などと併せて、標識により洪水時に想定される浸水の深さを確認することで、水災害リスクを実感してください。



熊谷市の取り組み。QRコード付きで国土交通省サイト「重ねるハザードマップ」をスマホから確認できます

避難するか
しないか、最後は
あなたの判断です

災害リスクを知ってください ハザードマップをスマホでも

あなたのまちにどんな災害リスクがあるのか、「わがまちハザードマップ」で確認してください。洪水や土砂災害のほか、内水氾濫も想定されている場合があり、小さな川の流下能力を超える降雨時には浸水するリスクがあります。

サイトでは、こうしたさまざまなハザードマップを確認することができます。もちろんスマホでも利用できます。

わがまちハザードマップで検索



国土交通省のサイト「わがまちハザードマップ」。スマホでも確認できます

「浸水ナビ」でリスクを点検 ウェブでシミュレートできます

「浸水ナビ」は、大きな川の堤防が決壊した場合、浸水エリアが時間の経過とともにどう広がるかをイメージすることができます。

浸水エリアが刻一刻と広がっていく様子がアニメーションで表示され、想定される浸水深や現在の河川の水位を確認することができます。浸水が始まったら短い時間で水かさが増していきますので、事前に確認しておくことが重要です。

浸水ナビで検索



カスリーン台風で荒川堤防が決壊した地点を指定した浸水表示。二階までが浸水する結果になりました

